

内容

センター開設 30 周年記念特集..... 1

センター活動報告 7

NRW 州連絡協議会に出席 7

日本人研究者ネットワーク連絡会議を開催 7

年次活動報告会“JSPS ABEND”を開催 8

センター長コラム 9

センターからのお知らせ 10

【表紙写真: トリーア、ポルタ・ニグラ】

ドイツで最も古い都市のひとつであるトリーアには、ローマ帝国時代の遺跡群が残存しており、世界文化遺産に登録されています。その遺跡の一つがラテン語で「黒い門」を意味する「ポルタ・ニグラ」です。上に登るとトリーアの旧市街を見渡すことができます。

ボン研究連絡センター開設 30 周年記念特集

～ご関係の皆様のご支援のおかげで、ボン研究連絡センターは 2022 年に開設 30 周年を迎えました～

今号では 30 周年を記念してボンセンターのこれまでの歴史を振り返り、特集記事をお送りします！

過去に本センターに赴任されたことのある 3 名の方々に当時を思いを馳せつつコメントをいただきました。ご存知の方もそうでない方も楽しんでお読みくださると幸いです。

内容

1. 林センター長のご挨拶

2. ボンセンターの沿革

3. ボンセンターに縁のある皆様からのコメント

-小平 桂一 氏
-樋口 和憲 氏
-中川 正志 氏

林センター長のご挨拶

9 月 1 日に開催した JSPS Abend でのセンター開設 30 周年に対する謝辞と開会の辞（抜粋）を、皆様への感謝の念を込めまして林センター長からのご挨拶としてここでご紹介します。

【原文】

(omit) I am very pleased to have this opportunity to meet all of you after 3 years of absence. Because of the Corona pandemic, we were unable to hold this annual event for the last two years. In addition, there is war still going on in Ukraine. I would like to express my deep sympathy to those who are affected by these developments. We would like to do our best to support those people in a way that a funding agency can do.

(omit) This year, the Japan Society for the Promotion of Science is celebrating the 90th anniversary of its foundation. Over this period, JSPS has developed and implemented a wide variety of programs, aimed at contributing to the advancement of science across the humanities, social and natural sciences.

Those programs embody our five major functions:

1. Fostering young researchers;

2. Promoting international scientific cooperation;

3. Awarding research grants as Grants-in-Aid for Scientific Research;

4. Supporting scientific cooperation between the academic community and industry; and

5. Collecting and distributing information on scientific research activities.

This year also marks the 30th anniversary of the JSPS Bonn Office. Our Office was established with an aim of promoting scientific cooperation between Japan and Germany. The Bonn Office has been working to implement and publicize JSPS programs, as well as supporting Japanese universities that have activities in Germany.

Throughout the years, we have been enjoying smooth operation of our activities.

This is because of the generous support we receive from all of you and particularly from our partner agencies in Germany.

We are thus grateful to DAAD, Humboldt Foundation and DFG for their continuous support and cooperation.

With **DAAD**, we have almost 50 years of collaborative relationship since 1973. DAAD nominates our Postdoctoral Fellows for short-term research in Japan. They also nominate Summer Program fellows. The Summer Program is a starting point for young German researchers to get interested in Japan. We hold an orientation together every year and DAAD provides support for them. DAAD is also our partner organization for Bilateral Programs for Joint Research based on MoU.



We also have almost 50 years of partnership with the **Humboldt Foundation**. JSPS has been partly supporting Japanese Humboldt fellows to come to Germany. We have been also asking the Humboldt Foundation to nominate JSPS Postdoctoral Fellows for the Standard program and partly for the Short-term research. JSPS and the Humboldt Foundation jointly hold a Frontiers of Science Symposium every year, inviting young preeminent researchers from each country. They get together for a week or so packed in a hotel and exchange their research interests. The symposium has become a tripartite one since 2017 including the United States National Academy of Sciences.



With **DFG**, JSPS started collaboration from 1992, and we are running many joint programs to support bilateral research collaborations, such as the Joint Seminars and International Joint Research. We also promote exchange between universities in Japan and Germany with the

Japanese-German Graduate Externship program. In addition, the JSPS Bonn Office has been working together with DFG for organizing events like Roundtable, Joint symposia and even JSPS Abend in 2019 last time.



Among the universities in Germany, we are very much indebted to **Bonn University** as we are located here in Bonn. From Bonn University, we always receive so many opportunities to get familiar with the academic events in Germany. We are also provided with many occasions to introduce our programs to the future generations of researchers in Germany, expanding our network here in Bonn and in Germany.



The JSPS Bonn Office has also built a strong partnership with the **JSPS Club**, the German JSPS Alumni Association of former JSPS fellows. (omit) The JSPS Club was established in 1995 by volunteers. It initiated and has been carrying out activities that maintain and strengthen ties between Japanese and German researchers. The executive board members of the Club, with Prof. Menkhaus as chair, have made great strides in organizing the association to accommodate and mobilize a growing membership of about 500. I would like to take this opportunity to praise our German alumni for their devoted efforts and fruitful activities.

Extending our heartiest appreciation to all of you for your cooperation, I hope our Bonn Office will continue to receive your close and friendly support.



Now I am very much looking forward to starting this event tonight giving you an opportunity to enjoy each other's company on this pleasant, early autumn evening.

Thank you very much.

【日本語訳】

(略) 3年ぶりに皆様とお会いできて嬉しく思います。新型コロナウイルスの感染拡大のため、過去2年、毎年恒例のこのイベントを開催することができませんでした。そのうえウクライナでの戦争が依然として続いています。このような事態に見舞われている方々に、心からお見舞い申し上げます。我々はファンディングエージェンシーとして、そのような方々のためにできる限り支援を行ってまいります。

(略) 本年はJSPSの創立90周年の記念すべき年です。これまでにJSPSは人文科学や社会科学から自然科学に至る学術の発展に資することを目的として幅広い事業を実施してきました。

これらの事業はJSPSの主要な5つの機能を体現するものです。

(1)若手研究者の育成、(2)国際学術協力の推進、(3)科研費等の研究助成の提供、(4)産学間連携支援、(5)学術研究関連の情報収集および広報

本年はボン研究連絡センターの開設30周年でもあります。本センターは日独の学術交流を推進するために開設され、JSPSの事業の実施・広報を行うとともにドイツで活動する日本の大学を支援してきました。長年にわたり、我々は順調に活動を続けて参りました。これもひとえにドイツの対応機関の皆様から多大なご支援を賜ったおかげです。DAAD、フンボルト財団、DFGによる継続的なご支援とご協力に感謝しております。

DAADとは1973年以来約50年にわたり協力関係を築いてきました。DAADは日本での外国人特別研究員事業（欧米短期）及びサマープログラムの推薦機関でもあります。サマープログラムは若手のドイツ人研究者が日本に関心を持つための出発点です。本センターではDAADと協力して毎年オリエンテーションを開催しています。DAADはMoUに基づく二国間交流事業の対応機関でもあります。

フンボルト財団とも約50年にわたりパートナーシップを結んでいます。JSPSはフンボルト財団の日本人フェローが来独する際に一部支援を行っております。JSPSはフンボルト財団に外国人特別研究員事業（一般・欧米短期）の推薦を依頼しています。また、毎年、先端科学（FoS）シンポジウムを合同で開催し、各国から優秀な若手研究者を招待しています。1週間ホテルに集まって、自身の研究内容について意見交換を行います。このシンポジウムは、2017年から米国科学アカデミーも含め3か国で実施しています。

DFGとは1992年から協力関係を築いており、共同セミナーや国際共同研究といった二国間の共同研究を支援する共同事業を数多く実施しています。日独共同大学院プログラムで両国の学生交流も推進しています。

更に、本センターとはラウンドテーブル、共同シンポジウム及び直近2019年のJSPS Abendなどのイベントを共同で開催してきました。

我々がボンに事務所を設置していることもあり、ドイツの大学の中でもボン大学にはとりわけお世話になっています。ボン大学にはドイツの学術的イベントに触れる機会やドイツの次世代の研究者にJSPSの事業を紹介する機会も数多く提供していただき、そのおかげでボンそしてドイツでのネットワークを広げることができています。

ボンセンターは、JSPSの元フェローによるドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（JSPS Club）とも密接な関係にあります。（略）この同窓会は1995年に有志によって設立され、日独の研究者のつながりを維持・強化するための活動を行っています。会長のメンクハウス教授をはじめとする理事会の尽力によって500名近くの会員を擁する組織に成長しました。

皆様のご協力に感謝するとともに、今後も引き続き温かいご支援を賜りますようお願いいたします。この初秋の心地よい夕べに、皆様とこのイベントを始められることを大変楽しみにしております。本日は誠にありがとうございます。

ボンセンターの沿革

1991年	JSPSの初ヨーロッパセンターとしてボン研究連絡センターを設置
1992年	ボン中心部にオフィスを開設、開所式を挙行政（開所式を挙行政したこの年を開設年とする）
1995年	日独学術シンポジウムを開始
1995年	ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（通称JSPS Club）が設立
1996年	ボン中心部から現在の学術センター（Wissenschaftszentrum）にオフィスを移転
2003年	MIMe（会員のための会員の招待）を開始
2004年	日独学術コロキウムを開始
2004年	JSPS Abendを開始
2008年	ジュニアイベント（現ジュニアフォーラム）を開始
2013年	ジュニアフォーラムを開始
2016年	サマープログラムオリエンテーションを開始
2016年	海外特別研究員オリエンテーション及びキャリアフォーラムを開始
2022年	開設30周年を迎える



ボンセンターに縁のある皆様からのコメント

1. 小平 桂一 氏



2008 年～2018 年 センター長として赴任

長年にわたる日独の学術交流の推進活動を高く評価され、外務大臣や DAAD、フンボルト財団等から受賞。

ボンの思い出

学振ボンセンターが開設 30 周年を迎え、関係者の一人として大変嬉しく存じます。これも学振本部を始め在独日本大使館、ドイツ側の各種学術関連組織・大学等の継続的な支援協力があったからと言えます。私がセンター長を務めた 2008 年 6 月から 2018 年 9 月までの 10 年 3 ヶ月は、多少の波はあったものの、日独ともに比較的安定していた時期でした。メルケル首相のもと、EU 牽引国の一つとしてのドイツは学術発展とその国際交流にも注力し、日本は少し背伸びしてお付き合いする感じだったように想われます。後半に入ると運営費切り詰めで旅費・謝金等の支出には苦労が付き物でしたが、歴代の副センター長や 20 年を超えて頑張ってくれる現地職員の働きで、ボンでの業務をこなす傍ら、ドイツ国内の諸研究機関・大学を始め、ヨーロッパの国々の対応機関を調査訪問することもできました。一度ならずモスクワやキエフも交流促進のために訪れていて、今振り返ると感慨深いものがあります。日本の大学の国際進出も盛んな頃で、ヨーロッパに在ってお互いに情報共有・協力支援を図るためのネットワーク（JANET）の発足にも至りました。

一方、東西ドイツ統合での首都ベルリン移転の実体化が進み、それまでボンに在った政治・外交関連機関が順次移転して行って、代わってドイツ・テレコムなどの大企業が目立ち始め、バードゴースベルク・ボンも「働き手の街」に変容しつつありました。しかし教育科学省は当面残存とかで、学振の対応機関はそのまま残り、国連大学・ボン大学の拡張発展などもあって「学術都市」的な色彩が豊かになってきました。ボンセンターは以前からの「ドイツ学術センター」に隣接した素晴らしい立地条件を保持し続け、日常的な交流も深まって、年一度の「学振の夕べ」には 100 人近くもの関係者が集まることもありました。

JSPS Abend 2018



研究を続けています。昨今のドイツの厳しい状況にも耐えて新たな工夫を凝らし、今後ともボンセンターが活躍が続けられますよう、陰ながら祈って居ります。

2. 樋口 和憲 氏

2004 年～2006 年 副センター長として赴任



現在：JSPS 東京本部人材育成事業部人材育成企画課長（兼人材育成事業部参事）

赴任中にドイツ同窓会の 10 周年、帰国後に研究者国際交流センターでドイツ同窓会の 20 周年（日独ドイツ年）を担当。

「ドイツの忘れえぬ贈り物」

ボン研究連絡センター設立 30 周年をお祝い申し上げます。

私は 2004 年 10 月～2006 年 9 月の 2 年間、ボン研究連絡センター（以下「ボンセンター」）副所長を務めました。振り返れば、ドイツから実に多くの贈り物を受け取りました。当時作成した『ぼんぼん時計』の 5 号から 13 号には大学や学問研究、学術支援に対する今も変わらぬ私の思いが詰まっています。

私の任期中、「日本におけるドイツ年」の一環としてドイツ語圏同窓会 10 周年記念の日本開催イベントを、またその後、ドイツ語圏同窓会 20 周年には縁あって研究者国際交流センター長として日本開催イベントを担当しました。準備は大変でしたが、良き思い出です。

20 代の頃、外国人特別研究員を 3 年ほど担当し、自主的オリエンテーションを企画したことがあります。研究室訪問、御嶽山登山、日光観光、野沢温泉スキー、能狂言観劇、バレーボール大会など様々なイベントを企画しました。そのとき一緒だった元フェロ

ーの皆さんとドイツで再会でき本当に嬉しかったことを思い出します。

また 40 年近い長きにわたってフンボルト財団（Die Humboldt-Stiftung）の事務総長を務められたハインリッヒ・プファイファーさん（故人）はすでに名誉職に就かれていましたが、イベントで再会できたことも喜びでした。私が初めてドイツ出張した 20 代半ばの係員時代に、シンポジウムの自由席のランチでプファイファーさんは「すっ」と隣に座って色々なことを教えてください、私の学術振興の志に火を点け、ずっと目標となった方でした。一橋大学長、国大協会長などを歴任されたドイツ中世史の大家・阿部謹也先生（故人）は若い頃フンボルト財団奨学生でしたが、何百人もフェローの参加するフンボルト交流会の会場で日本の片田舎（当時は小樽商科大所属）から来た業績も何もない阿部先生の名前をプファイファーさんが覚えていて、その研究を詳しく知った上で次々質問をされて驚いたそうです。フンボルト財団の「Stiftung」には元々寄付、基金、あるいは贈り物等の意味がありますが、まさに「Stiftung」を体現するような方でした。

ボンセンターの皆さんには本当にお世話になりました。普段ミュンヘンのマックスプランク研究所にいらしたセンター長の田中靖郎先生（故人）には理事長から叱責され鬱いでいたときに慰めていただいたこともあります。現地職員のガンターさん、シュルツさんにはいつもどんなときも支えていただきました。ボン大学生のアルバイトの皆さんにもドイツ語ができず分からないことばかりだった私たち、妻と小学校の娘ともども助けていただきました。日本からの研修員の皆さんのご尽力も忘れられません。ドイツ語圏同窓会長のメンクハウス先生をはじめ同窓会メンバーの皆さんとの活動は本当に楽しい思い出です。ドイツでの忘れえぬひとときを共に過ごした皆さんに心から感謝します。

最後にボンセンターとドイツ語圏同窓会の益々のご発展をお祈りします。

「20 周年の頃」

JSPS ボン研究連絡センター設立 30 周年、誠におめでとうございます。2025 年にはドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（JSPS-Club）も 30 周年を迎えると伺っています。ボンセンターと同窓会の永続的な研究者交流活動に、心より敬意を表します。

私は 2006 年度に国際協力員（国際学術交流研修生）として、2010 年 8 月から 2012 年 7 月まで副センター長として、計 3 年間にわたりボンセンターで勤務する機会をいただきました。副センター長としての在任期間は、2012 年度はボンセンター 20 周年に、その前年の 2011 年は日独交流 150 周年記念の年に当たり、多くの交流行事が計画されていた年でした。例年、ボンセンターは、春の同窓会との共催による学術シンポジウム、秋の対応機関等との交流行事 JSPS Abend（JSPS のタベ）、冬の若手を中心とした研究者交流を図る学術コロキウムといった行事を中心に動いていましたが、2011 年から 2012 年にかけてはそうした行事を例年より規模を拡大して実施するとともに、ドイツの大学にも日独交流のための予算が措置され、週替わりのように「日本週間」と名付けた行事が各大学で開催され、ボンセンターにも多くの大学から「日本週間」への参加の依頼があり、毎週のように大学を訪問して渡日プログラムの説明等を行っていました。2011 年の日独交流 150 周年で日本への関心が高まっている非常に良い雰囲気の中で、ボンセンターの 20 周年を迎え、対応機関や大学関係者との関係もより深まり、裾野も拡大して行ったと記憶しています。

ボンセンターは、対応機関が集結するボン市の学術センター内という立地を生かし、対応機関や大学の、担当者から幹部まで、若手研究者からシニアの研究者まで、幅広く重層的な信頼関係を築いていました。JSPS のプログラムにより渡日する研究者から頼りにされているのはもちろんのことですが、対応機関からは、例えば大統領や首相が出席するドイツ研究振興協会（DFG）年次総会などの重要行事にも招待されています。こうした関係は、JSPS 本部の指導と積極的な関わりの中で、大使館、領事館をはじめとする在独日本関係機関の協力をいただきながら、同窓会とも連携し、歴代のセンター長、副センター長以下の日独のスタッフの努力と人柄によって、築かれて来たものと拝察します。

2016 年からは、JANET (Japan Academic Network in Europe) という新しい枠組みでの活動も行われていると伺っており、30 周年以降も更なる交流が生まれ、発展していくことと確信しております。

JSPS ボン研究連絡センターのますますの発展を祈念申し上げます。

3. 中川 正志 氏



2006 年：国際協力員として赴任

2010 年～2012 年：副センター長として赴任

現在：新潟大学総務部労務福利課専門職員（労務企画）

副センター長として赴任中にセンター開設 20 周年を担当。

センター活動報告

NRW 州連絡協議会に出席

日時：2022 年 8 月 17 日（水）

場所：デュッセルドルフ総領事公邸

参加者：林センター長、須藤副センター長

ノルライン・ヴェスト・ファーレン（NRW）州学術関係機関連絡協議会に出席しました。本協議会は在デュッセルドルフ総領事館、ケルン日本文化会館、天理大学ドイツ・サテライトオフィス、JSPS ボン研究連絡センター、今回はご欠席でしたが筑波大学ボンオフィス、上智大学ケルンオフィスがメンバーとなっています。今回は各機関の活動状況や留学生の派遣／受入状況に加え、新型コロナウイルス（COVID-19）による影響などが共有されました。前回 1 月開催時とは異なり、対面でのイベントや交流が徐々に再開されている様子うかがわれました。

本センターからは、2022 年 3 月の水際対策の緩和の影響を受け、待機状態であった外国人特別研究員の渡航が軒並み叶ったことを報告するとともに、渡航に際して困難に直面した方々の具体的な事例などを紹介しました。



学術関連も重んじられ、本協議会だけでなく、これまで多大なご協力をいただいていた岩間公典総領事が 9 月を以てご帰任となられたことは非常に残念ですが、感謝の念を胸に抱き、今後も総領事館及び各機関との連携を継続していきたいと思えます。

日本人研究者ネットワーク（JR-Net）連絡会議を開催

日時：2022 年 9 月 1 日（木）

場所：Hotel Königshof Bonn（ボン）

本センターでは 2014 年からドイツで研究する日本人研究者の意見交換の場として、日本人研究者ネットワーク（JR-Net）連絡会議を開催しています。今年もドイツ語圏の大学、研究機関で活躍している日本人研究者 3 名と、在欧の日本人研究者ネットワーク世話人 1 名をお招きし、本センターからは林センター長及び須藤副センター長が出席して意見交換を行いました。

会議では、在欧の日本人研究者ネットワークの活動状況について世話人の方から説明や今後の課題についての情報共有があり、本センターからは本会の各種国際交流事業や、海外特別研究員制度などの日本人研究者を諸外国に派遣する事業及び外国人研究者招へい事業、科学研究費助成事業のうち国際共同研究加速基金の種目等について説明を行うとともに、2016 年度から開催している在独の海外特別研究員を対象としたオリエンテーションなどのセンターでの取組とその課題について報告・意見交換を行いました。

組織としてのネットワークの継続の難しさが見受けられる現状において、安定して研究者間を繋ぐ方法、研究者が求める情報の内容や発信方法など、活発に意見交換が行われました。今後ボンセンターでは、ご意見を参考により有用かつ有効な情報発信に努めていきたいと思えます。

年次活動報告会“JSPS Abend”を開催

日時：2022 年 9 月 1 日（木）

場所：Hotel Königshof Bonn（ボン）

9 月 1 日、ボン研究連絡センターは年次活動報告会“JSPS Abend”を開催しました。今年度は本センター開設 30 周年かつ 2019 年以来 3 年ぶりの開催となりました。ドイツにおける本会対応機関、および日独の学術関係者 60 名超が招待されました。

はじめに本センターの林正彦センター長が開設 30 周年に対する謝辞と JSPS Abend 開会の辞を述べました（※ご挨拶の詳細は 1～3 ページ参照）。その際、本センターのこれまでの振り返るスライドショーを上映し、関係機関との長年にわたる交流の歴史を改めて実感することができました。



林センター長からのご挨拶に次いで、ドイツ学術交流会（DAAD）の Kai Sicks 事務総長、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団

（AvH）の Thomas Hesse 副事務総長、ドイツ研究振興協会（DFG）の Ingrid Krüßmann 国際交流部副部長、デュッセルドルフ在独日本国総領事館の岩間公典総領事より祝辞を賜りました。続いてボン大学の Michel Hoch 学長に乾杯のご発声をいただき、盛大に開会することができました。参加者はピアノとチェロの二重奏を楽しみながら親睦を深めていました。



会の後半には、デュースブルクエッセン大学の Katja Kölkebeck 教授より、外国人特別研究員等 JSPS の国際交流事業を活用した日本での滞在経験、研究活動や日独間の研究協力に

関して発表がありました。またご自身が理事会委員を務める JSPS ドイツ



同窓会（<https://www.jsps-club.de/ja/about-us/the-jsps-club>）についてもご紹介いただきました。

ボン大学のケーテ・ハンブルガー研究所「文化と法」（Käte Hamburger Kolleg“ Recht als Kultur”）の設立者である Gephart Werner 教授からサプライズで林センター長に絵画が贈呈される場面もあり、最後に須藤絵里子副センター長の挨拶をもって、盛況のうちに閉会しました。



コロナ禍による様々な影響を受けたため、従来と比較すると残念ながら参加人数は減少しましたが、関係者同士が対面で情報交換しつつ交流を深めることができ、有意義かつ貴重な機会となりました。



センター長コラム

コロナによる規制が大幅に緩和されたこの夏、ドイツでも多くの人が夏休みを利用して出歩いたようだ。この春以降、私もドイツ鉄道（DB）を利用して出歩く機会が増えた。時刻通りに走ることがほとんどない DB の、ドイツでの評判はあまり良くない。しかし、私はこの夏、ひょっとしたら DB は日本の鉄道マニアを強く引きつけるのではないかと思うようになった。

DB で何が楽しめるかと言えば、日本の JR ではあり得ない予測不可能な体験ができることだ。

先日ベルリンに行った帰りのこと。特急電車（ICE）でベルリンからケルンまで 4 時間ちょっとの行程なのだが、ベルリン出発早々、ケルンの 20 km くらい手前で線路故障が発生して通行不能になっているというアナウンスがあった。気にする必要はない。ドイツでも鉄道網が特に細かく二次元的に張り巡らされているルール地方では、このような場合は単に迂回するだけである。その分遅れが生じるのだが、迂回しなくても遅れるのが当たり前の DB だと、新たに生じた遅れが全く気にならない。いつも遅れを経験していると、こういうときには逆に安心感が生まれるという自分の精神状態に気づいて、不思議な感覚にとらわれた。

いずれにせよ、予定外の区間を通るのは楽しいものだ。長い特急電車の通過が想定されていないような急カーブを低速で通過するときには、車輪がすべってきしみ音が聞こえ、車両全体が激しく振動する。それでもケルン中央駅（<https://ja.wikipedia.org/wiki/ケルン中央駅>）に向かって着実に進んでいるようだ。

ケルンが近づくと、迂回のために生じた遅延の影響が頻繁にアナウンスされるようになった。しかも英語で。どうやら乗客のうち相当数が、ケルンからパリ行きの最終電車であるタリス（<https://ja.wikipedia.org/wiki/タリス>）に乗り継ぐことになっているようだ。私の乗っている特急がケルンに着くのは、タリスの出発予定時刻より少し後になる予定なので、DB の管制室を通して、タリスの出発時刻を少し遅らせてもらう交渉をしているようだ。

しばらくして、残念ながらタリスはこの電車を待ってくれないことになったとのアナウンスがあった。交渉は失敗したようだ。これで多くの人が今日中にパリに行けなくなる。私の乗っている車両でも何人かが電話をかけ始めて、予定の変更を伝えようとしていた。

それから 5 分ほどして、電車はようやくゆるゆるとライン川を渡り始めた。ケルン中央駅はライン川を渡ってすぐ西側にある。この鉄道橋（ドイツで最も列車の通過本数が多い橋らしい）には線路が 6 本（複線 3 組）しか無い。ライン川の東からケルンに入る電車は、すべて 3 本の線路のどれかを通ってケルン駅に 11 本あるプラットフォームのどれかに入っていく。当然ながら電車の渋滞が起こる。ふと赤い電車が視野に入ってきたので顔を上げると、橋の上にタリスが止まっているではないか。私たちの乗った電車は、その隣をゆるゆると追い越しているのである。

電車がケルン中央駅のプラットフォームに入り始めると、「パリ行きの皆さん、おめでとうございます。たまにはこういう奇跡も起こるものです」と、歓喜のアナウンスがあった。何ごとも最後まであきらめてはいけないという教訓であろうか。

センターからのお知らせ

今後のイベント

【開催決定】

2022 年 11 月 10 日（木）：

海外特別研究員オリエンテーション兼キャリアフォーラム

※今回から海外特別研究員採用者以外の研究者の方々にもご参加いただけるようになりました！詳しくは本センター Web サイトからご確認ください。

【詳細調整中】

2022 年 11 月：会員による会員のための招待（MIME）

2023 年 1 月～2 月頃：日独学術コロキウム

※新型コロナウイルス（COVID-19）によりイベントの開催が依然として流動的な状況です。

最新の情報はボン研究連絡センターの Web サイト(<https://www.jsps-bonn.de/ja/home/jsps-bonn-office>)

や Twitter をご確認ください。

ドイツ学術ニュースについて

これまでドイツ学術ニュースをぼんぼん時計に掲載してきましたが、今回から本紙面での掲載を休止し、ボンセンター Web サイト (<https://www.jsps-bonn.de/ja/research-in-germany>) のみで公開することといたしました。

毎月 1 回のペースで更新予定ですので、是非 Web サイトからご覧ください。



日本人研究者ネットワーク（JR-Net）のご紹介

本センターHPでは、ドイツ語圏で自主的に立ち上げ運用されている日本人研究者ネットワークを紹介しています。

詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/jr-net>

在独日本人研究者登録のお願い

本センターでは、ドイツ語圏でご活躍の日本人常勤研究者（教授、准教授、研究所グループリーダー等）で、JSPS の事業等の情報配信を希望する方、在独日本人若手研究者の支援にご協力いただける方などのご登録をお待ちしております！

詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/jr-net>

ボン研究協力センターTwitter アカウントのご紹介



ボン研究連絡センターでは Twitter アカウント

(@jsps_bonn) を通じてイベントや各種プログラムの公募など、在独の研究者の皆様や今後ドイツでの研究滞在をお考えの皆様向けの情報発信を行っています。

是非フォローとチェックをお願いいたします。



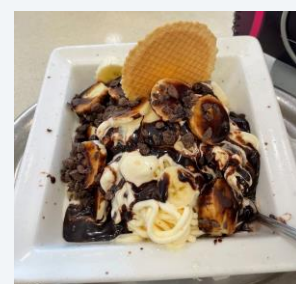
フォローはこちらから！

協力員コラム

朝晩はすっかり冷え込むようになり、ボンはすっかり秋模様です。雨が降ることも多く、日照時間も日に日に短くなってきました。噂に聞く暗い冬の到来がなかなか心配です。

そんな中季節外れですが、記録的な猛暑だった今年の夏を振り返る意味も込めて、ドイツの夏の名物「スパゲティアイス」をご紹介します。スパゲティのような細麺の形状のバニラアイスに、真っ赤なイチゴソースを載せ、更にホワイトチョコパウダーをトッピングした様がミートソーススパゲティに見えることからこう名付けられたと言われています。本物のスパゲティは一切入っていませんのでご安心ください。イチゴ以外にも様々なフレーバーがあり、ボリュームも満点ですので、夏にドイツを訪れる方々には是非お勧めしたいメニューです。

河合 国際協力員



▲スパゲティアイスの一例



日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office

Wissenschaftszentrum

Ahrstrasse 58, 53175 Bonn (事務所住所)

Postanschrift: 20 14 48, 53144 Bonn (郵便物用)

Tel. +49(0)228-375050

Fax +49(0)228-957777

www.jsps-bonn.de

▲ぼんぼん時計 No.70 で修復作業のため姿を消したとお知らせしたミンスター広場（ボン中央駅付近）のベートーヴェン像が無事に帰ってきました。

新たに設けられた # Bonn.のモニュメントと共に...